


医論第197号

(別紙様式第3号)

論 文 要 旨

論 文 題 目

Influence of human T lymphotropic virus type I infection on the etiology  
of community-acquired pneumonia  
(市中肺炎の病因に対する HTLV-I 感染の影響)

氏名 熱海 恵理子 




〈背景〉成人T細胞白血病の原因である、
ヒトTリンパ好性ウイルス (HTLV-I) は肺結核、
糞線虫症など種々の感染症の発症との関連が
報告されている。しかしながら、呼吸器感染
症とHTLV-I感染との関連は未だ明らかではない。
〈目的〉市中肺炎とHTLV-I感染との関連を明
らかにするため、入院患者における大規模後
ろ向き試験を行った。
〈方法〉本試験は1991-2007年の間に琉球大学
医学部附属病院第一内科に入院した4666人の
患者を対象に行われた。後天性免疫不全症候
群の患者は本試験から除外した。4666人のう
ち、313人が市中肺炎と診断された。血清中
HTLV-I抗体価は全員入院時に測定された。HTLV-I
感染率を、市中肺炎患者と全入院患者で比較
し、また、HTLV-I陽性市中肺炎患者とHTLV-I陰性
市中肺炎患者間で、肺炎の重症度や徴候につ
いても比較した。
〈結果〉HTLV-I感染率は全入院患者と比較し、
市中肺炎患者で有意に高値であった (18.9% :

13.7%,  $p=0.011$ )。また、腎疾患 (11.9% : 3.5%,  $p=0.02$ ) と膠原病 / 血管炎 (18.6% : 4.3%,  $p<0.001$ ) が、HTLV-I 陽性市中肺炎患者では HTLV-I 陰性市中肺炎患者と比較し、有意に多くみられた。多変量解析では、HTLV-I 感染 ( $p=0.049$ )、性別 ( $p=0.03$ )、COPD ( $<0.001$ )、膠原病 / 血管炎 ( $p=0.001$ ) が市中肺炎の独立した危険因子であった。市中肺炎の重症度を示す、PORT スコア、CURB-65 スコアは HTLV-I 陰性患者と比較し、HTLV-I 陽性患者で有意に高かった。

〈結論〉本試験により、HTLV-I 感染が市中肺炎の独立した危険因子であること、HTLV-I 感染者の肺炎は重症化しやすいことが示された。

(別紙様式第 7 号)

## 論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	熱海 恵理子
論文審査委員	審査日	平成 22 年 2 月 18 日	
	主査教授	成吉幸男	
	副査教授	森直樹	
	副査教授	山根誠久	
(論文題目)			
Influence of Human T Lymphotropic Virus Type I Infection on the Etiology of Community-acquired Pneumonia			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容、および研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。			
1. 研究の背景と目的			
成人 T 細胞白血病の原因である、ヒト T リンパ好性ウイルス(HTLV-I)は肺結核、糞線虫症など種々の感染症の発症との関連が報告されている。しかしながら、呼吸器感染症と HTLV-I 感染との関連は未だ明らかではない。この背景をふまえ、今回我々は市中肺炎と HTLV-I 感染との関連を明らかにする目的で、入院患者における大規模後ろ向き試験を行った。			
2. 研究内容			
本試験は 1991-2007 年の間に琉球大学医学部附属病院第一内科に入院した 4,666 人の患者を対象に行われた。後天性免疫不全症候群の患者は本試験から除外した。4,666 人のうち、313 人が市中肺炎と診断された。血清中 HTLV-I 抗体価は全員入院時に測定された。HTLV-I 感染率を、市中肺炎患者と全入院患者で比較し、また、HTLV-I 陽性市中肺炎患者と HTLV-I 陰性市中肺炎患者間で、肺炎の重症度や疫学的特徴についても比較した。			
HTLV-I 感染率は全入院患者と比較し、市中肺炎患者で有意に高値であった(18.9% : 13.7%, $p=0.011$ )。また、腎疾患(11.9% : 3.5%, $p=0.02$ )と膠原病/血管炎(18.6% : 4.3%, $p<0.001$ )が、HTLV-I 陽性市中肺炎患者では HTLV-I 陰性市中肺炎患者と比較し、有意に多くみられた。多変量解析では、HTLV-I 感染( $p=0.049$ )、性別( $p=0.03$ )、COPD( $<0.001$ )、膠原病/血管炎( $p=0.001$ )が市中肺炎の独立した危険因子であった。市中肺炎の重症度を示す、PORT スコア、CURB-65 スコアは HTLV-I 陰性患者と比較し、HTLV-I 陽性患者で有意に高かった。			
以上より本試験により、HTLV-I 感染が市中肺炎の独立した危険因子であること、HTLV-I 感染者の肺炎は重症化しやすいことが示唆された。			